

## 「空の鳥、野の花」

### マタイによる福音書 6章25～34節

大学事務局学長室 IR 企画課マネージャー 成瀬 知

今回の聖書箇所は、空の鳥、野の花のたとえを用いた説教の箇所です。

神様は空の鳥を養い、野の花を育ててください。「まして、あなたがたにはなおさらのことではないか。」「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのことはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労はその日だけで十分である。」という箇所です。

この聖書箇所を読むたびに、イエス様の言葉に力づけられます。一方で、自分の日常において、また現在の様々に困難な社会情勢を考えると、信仰の薄い者である私は、どうしても思い悩む毎日を過ごしてしまいます。

今回、奨励をご依頼いただいたことを機会に、改めてこの箇所について私なりに考えてみました。

大学時代に受講した、水平と垂直に関する宗教学の講義が印象に残っています。私達の間人間関係や社会との関係は相対的であり、水平であるが、神との関係は絶対的であり、垂直である、という話だったと記憶しています。

また、船本弘毅先生の『水平から垂直へ』という講演集のなかに、やはり水平と垂直についての章があります。このなかで船本先生は、住み慣れた土地を離れ遠方に転居した高齢の友人からの手紙を、以下のように紹介されています。

『わたしにとって、水平に移動する最後の旅になるでしょう。次の旅は垂直な天に召される旅であることを願っています』。

そしてこのように述べられます。「この世のわたしたちの歩み、よし苦難と戦いに満ちているとしても、それは、天のふるさとを目指す歩みです。天のふるさとに帰ることが許されているという望みが、この現実世界の只中で、精一杯働く力となり、またこの世の一日一日を主にあつて生き抜く者が、主のふるさとへ招かれているのです。」

本日の聖書の箇所に戻ります。私は小さく、日々色々な事に間違い、悩む者です。しかし、空の鳥、野の花を神様が育ててくださいるように、私も神様に垂直につながることで、神様は私をも育て、守ってくださいののだと思いました。神様が共にいてくださることを信じて、一日一日を生きていきたいと思いません。

ご在天の父なる神様、私達をお守りくださり感謝いたします。一日一日を、勇気と希望をもって歩むことができますよう、私達の心と体をお支えください。この小さな祈り、主イエス・キリストの御名により御前にお献げいたします。アーメン

2021年6月22日 聖学院大学 全学礼拝